稲作への使用方法

育苗時の処理

農薬併用OK

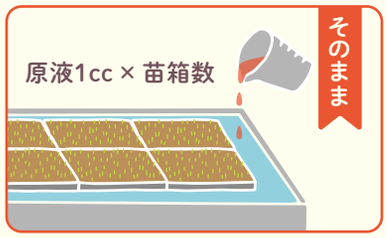
種籾を浸漬処理する場合

光合成細菌原液を1,000倍に希釈し、24時間漬けてください。数日浸漬処理する場合は最終日に光合成細菌をご使用ください。

プール育苗の苗に使用する場合

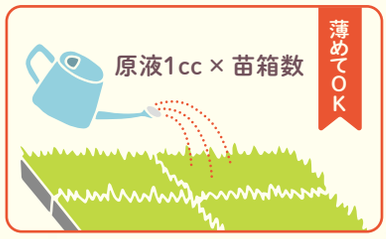
苗が緑化した後に、苗箱1枚当たりに光合成細菌原液1cc（例:10枚の場合10cc）を、全体に行き渡るように1回散布してください。

※緑化…苗の1葉目が開き2葉目が出始めた頃



田植え時に苗箱処理する場合

苗をご購入の場合は、購入してすぐに苗箱1枚当たりに光合成細菌原液1ccを与えてください。この場合、水の量は大きく関係ありませんので、散布しやすい希釈倍率で散布していただけます。



上記のいずれかひとつの処理でOK!

水田への散布方法

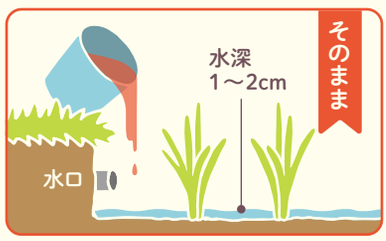
農薬併用NG

1回目 田植え１週間後

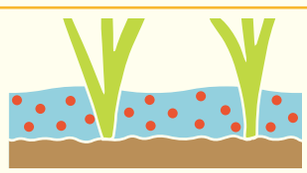
水深1～2cmまで落水した状態で水尻を止め、光合成細菌原液10リットル（10a当たり）を水口から流し込んでください。その後、水深10cmくらいまで入水し、数日間は落水しないでください。

2回目 出穂30～40日前（幼穂形成期）

水深1～2cmまで落水した状態で水尻を止め、光合成細菌原液10リットル（10aあたり）を水口から流し込んでください。その後、水深10cmくらいまで入水し、数日間は落水しないでください。



流し込み直後は圃場の中の菌数に10～100倍のばらつきがありますが、光合成細菌は圃場の中で増殖し、数日のうちにほぼ均一な状態になります。



農薬を使用する場合は、光合成細菌散布から1週間以上空けてください

TEST

光合成細菌を使用した

稲作の試験データ

光合成細菌は水田と相性抜群！

光合成細菌は様々な作物に使用することができます。その中でも抜群に効果を発揮する作物が、水稲やレンコン、い草です。光合成細菌は水の張ってある水田や水蓮の土壌中で動き回り、よく働きます。有害な有機物などを体内に取り込み、無害なものに変えることで、土壌中の環境を良くしてくれ、特に根腐れの原因でもある硫化水素を分解することは、収量増加にもつながります。

試験データA

103kg /10a 増収！

場所	球磨郡あさぎり町
品種	にこまる
投与方法	希釈した光合成細菌を、種もみを蒔いた後に散布

試験データB

113kg /10a 増収！

場所	八代市鶴喰（つるばみ）
品種	くまさんの力
投与方法	田植え後1週間後と幼穂形成期（出穂40日前）に10ℓ/10a流し込み

試験データC

38kg /10a 増収！

場所	球磨郡あさぎり町
品種	北陸193号（多収穫米）
投与方法	田植え後1週間後と幼穂形成期（出穂40日前）に10ℓ/10a流し込み

病気に負けない作物づくり

環境保全

安心安全な食

くまレッド 100ℓ培養用

500cc ×1個
光合成細菌
1,100円

500cc ×2個
培養液（エサ）
4,300円

セットで **5,400円**（税込・送料別）

光合成細菌半年
培養液1年
保存可能！

ご購入はWEBサイト、またはLINEアカウントから

株式会社 Ciamo（シアモ）

ciamo

〒860-0082 熊本市西区池田4-22-1 G号館2F

096-359-3302

営業時間 9:00~17:00（土日祝休）

＼日々の活動を投稿中！／

フェイスブック・Instagram・WEBサイト ▶▶

培養できているか心配な方は、画像をお送りください。
無料で培養アドバイスをさせていただきます！

くまレッド LINE 公式アカウント

ID：@xzf2510b